TOYAMA CITY HOSPITAL MAGAZINE

きより

No. 109
2023年7月号
富山市民病院マガジン「きより」

Toyama City Hospital
富山市立富山市民病院

●題名の「きより」は病院の清潔なイメージや医療の透明性、そして心の美しさを表し、柔らかでやさしい書体はやすらぎと信頼を表現しています。

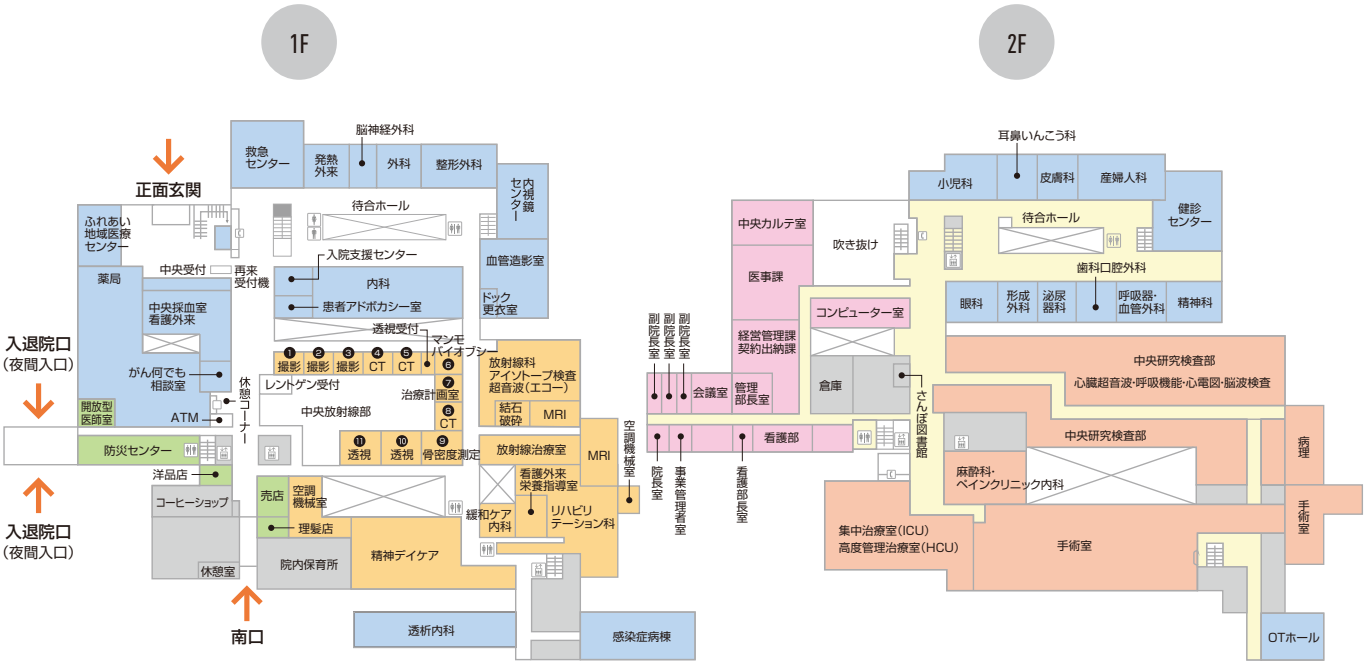
特集
新体制となった外科の現在と未来

特集
「中央採血室」始まる！

特集
日進月歩で新しく

Floor Guide

案内図



	外来診療棟		西病棟	東病棟	南病棟	
8F			心臓リハビリテーション室	病室　東801～827		8F
7F			病室　西701～723	病室　東701～725		7F
6F			病室　西601～621	病室　東601～625		6F
5F			病室　西501～526	病室　東501～527		5F
4F			病室　西401～426	4階リハビリテーション 治験支援センター	病室　南401～425	4F
3F		講堂 図書室 医局	病室　西301～320	病室　東301～321 外来治療室	病室　南301～321	3F
2F	管理部長室 経営管理課 契約出納課 医事課	呼吸器・血管外科 小児科 耳鼻いんこう科 皮膚科 産婦人科 精神科 歯科口腔外科 泌尿器科 形成外科 眼科 健診センター	事業管理者室 院長室 副院長室 看護部長室 看護科事務室 電話交換室	検査部 麻酔科 ペインクリニック内科 集中治療室 高度管理治療室 手術部 医療マネジメント室 感染防止対策室	活動療法棟 OT ホール	2F
1F	玄関ホール 総合案内 中央受付 ふれあい地域医療センター 中央採血室 看護外来 薬局 がん何でも相談室	救急センター 発熱外来 脳神経外科 外科・乳腺外科 整形外科・関節再建外科 内科 内視鏡センター 血管造影室 アドボカシー(患者支援)室 医療安全管理室	売店 防災センター コーヒーショップ	レントゲン 放射線科(治療・診断) リハビリテーション 精神デイケア 緩和ケア内科 看護外来 栄養指導室	感染症病棟 透析センター	1F
B1F			薬品管理事務室 霊安室 剖検室	中央リネン室 栄養科		B1F

さとら

No.109

2023年7月号

Contents

特集 Special Feature

新体制となった外科の現在と未来

［インタビュー］ 外科部長／宮下 知治 医師
消化器外科部長／佐々木 省三 医師
肝胆膵外科・乳腺外科部長／竹下 雅樹 医師 02

特集 Special Feature

「中央採血室」始まる！

［インタビュー］ 副院長／林 茂 医師
内科看護師長／神田 亜矢子 看護師
臨床検査科副主幹／村椿 智佳子 臨床検査技師 07

特集 Special Feature

日進月歩で新しく

［インタビュー］ 副院長・医療局長／家城 恭彦 医師
副院長・医療技術局長／湖東 慶樹 医師 11

Topics

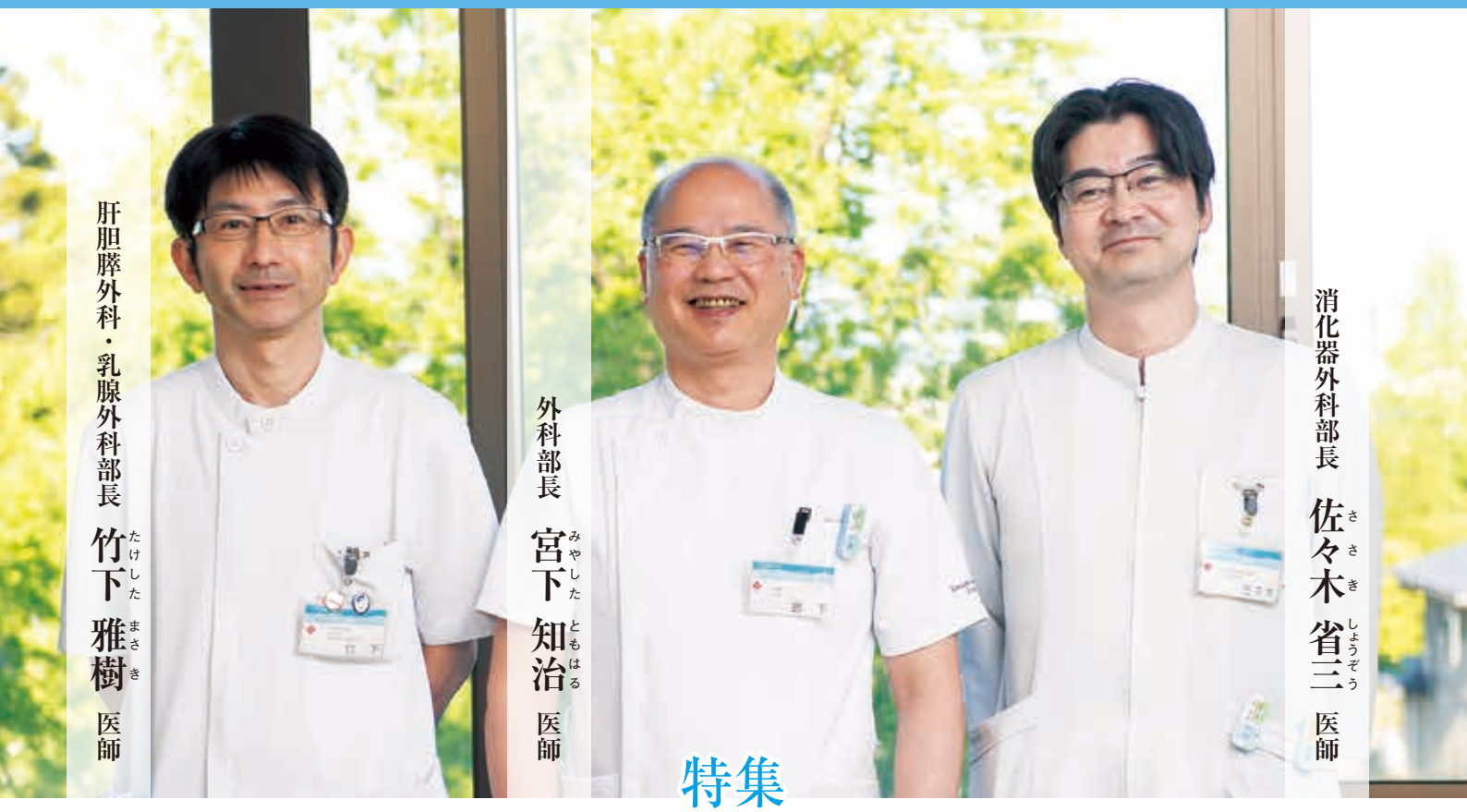
特定行為研修 開講式を行いました
新人1か月フォローアップ研修（ボクササイズ体験）を行いました 13

発 行
富山市立富山市民病院
広報委員会

〒939-8511
富山市今泉北部町2-1
TEL. 076-422-1112
FAX. 076-422-1371
https://www.tch.toyama.toyama.jp/

Toyama City Hospital
富山市立富山市民病院

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構



特集

新体制となった外科の現在と未来

この春、当院には、金沢大学の肝胆膵・移植外科病院教授や金沢医科大学の一般・消化器外科学准教授を務めた宮下知治医師が、外科部長として赴任。消化器外科部長の佐々木医師、肝胆膵外科・乳腺外科部長の竹下医師とともに、外科の新体制について語る。

富山市民病院の印象は？

Q. 新外科部長に就任されましたが、市民病院はどんな印象ですか？

宮下　いろいろな病院で働いてきましたが、こちらは、大きな病院の割に小回りもきき、スタッフの皆さんが働き者で、先生方はとても患者さん想いだと思います。すべての疾患において、過不足なく、標準以上の治療が行われていますし、チームワークにも優れた病院だと感じています。

「スピード感」と「丁寧さ」

Q. 佐々木先生は、こちらに10年在籍されているそうですが、この病院の良さは、どんなところだと思いますか？

佐々木　まずは、フットワークの軽さですね。緊急手術が必要な患者さんは、なるべくお待たせしないように準備を進めますし、夜間であっても当番医がしっかり対応しますので、スピード感をもって、フレキシブルに動けるところが、当院の良さではないかと思います。

Q. 通算で約8年こちらに勤務されている竹下先生は、どうお考えでしょうか？

竹下　機械的に病気だけをみて手術などを行うのではなく、患者さんやご家族に寄り添いながら、時に受け身にもなり一緒に考える医療を、スタッフ一丸で実践しています。結果が思わしくない時の精神面でのフォローも含めて、丁寧にお付き合いをすることも、当院外科の特色かと思います。

いろいろな「外科」

Q. では、改めて、市民病院の外科の概要についてお話しください。

宮下　当院の外科は、一般的に〝脱腸〟とも呼ばれる鼠径ヘルニアなどを扱う「一般外科」、消化器や肛門の疾患を扱う「消化器外科」、乳がんなどを診る「乳腺外科」からなります。

さらに、「消化器外科」は、食道・胃・小腸・結腸・直腸および肛門の病気を専門とする「消化管外科」と、肝臓・胆道（胆管、胆のう）・膵臓の病気を専門とする「肝胆膵外科」に分かれていますが、スタッフはいずれにも習熟しており、互いに連携しています。

緊急手術で地域に貢献

Q. まず「一般外科」について、もう少し詳しく教えてください。

宮下　「一般外科」では、鼠径・腹壁ヘルニア、肛門から直腸が飛び出す直腸脱などの良性疾患に加えて、急性虫垂炎、腸閉塞など、緊急手術が必要な患者さんを積極的に受け入れ、地域医療に貢献しています。

先ほど、佐々木医師からお話もありましたように、緊急手術を要する患者さんには、迅速な診断、丁寧な説明、そして確実な手術ができるよう、常に準備しており、必ず上級医が手術に参加しています。

根治性と身体への負担、機能温存のバランス

Q. 「消化器外科」の中の「消化管外科」ではどのような治療をされますか？

佐々木　「消化管外科」は、食道・胃・小腸・結腸・直腸などの、主に悪性腫瘍の〝根治手術〟を行っています。〝根治手術〟とは、病気を完全に治すことを期待して行う手術のことです。適用条件が合う限りは、開腹術より小さな傷で済む腹腔鏡手術を取り入れ、なるべく体への負担は小さく、機能温存のバランスもとれる方法で根治を目指します。

すべての病巣を取り除いて完治させることが難しい患者さんについても、胃と腸、あるいは腸と腸の間に新しい道をつくるバイパス術や、人工肛門造設といった緩和手術を行い、がんの種類や進行度に応じて、化学療法や放射線療法などを組み合わせ、集学的に治療を行っています。

身体への負担が大きい「肝胆膵」の手術

Q. 続いて「肝胆膵外科」についてお願いします。

竹下　「肝胆膵外科」では、胆石などの良性疾患のほかに、肝臓・胆管・胆のう・膵臓のがんを主に扱っています。消化管がんに比べて、身体への負担が大きい手術になることが多く、患者さんの年齢や体力、ADL（日常生活動作）に合わせて治療方針を決定しています。

膵がんなど、数年前までは切除不能とされていた高度局所進行がんであっても、化学療法などが功を奏し、がんが縮小した場合は、その後切除することもあります。また最近では、膵体尾部切除術などに、腹腔鏡手術も導入し、負担軽減を図っています。

マンモグラフィやエコーは女性技師が担当

Q. 引き続き、「乳腺外科」についてもご説明ください。

竹下　「乳腺外科」では、乳房に関する症状がある方や、検診要精査の方の精密検査を行っています。マンモグラフィや乳腺超音波（エコー）の検査は、女性技師が担当し、診断と治療は十分に経験を積んだ専門医が担当しています。

もし、乳がんと分かれば、手術や抗がん剤、放射線療法などを経て、経過を観察し、再発がないか定期的に診断するところまで、主治医を中心に、関係科・関係職種が連携し、チーム医療を展開します。治療方針は、ガイドラインに沿った標準治療を基本に、個々の患者さんと十分に時間をかけて相談し、決めています。

また、別の疾患を抱える高齢の患者さんも多いため、院内はもちろん、かかりつけの先生方との連携を通じ、包括的なケアができるよう努めています。

カンファレンスで治療方針を決定

Q. 科や職種を超えた連携を大切にされているのですね。

宮下　はい。がんなどの悪性腫瘍の患者さんに対しては、切除術により根治させることをまずは目標とし、治療方針の決定は、週1回開催する消化器内科との合同カンファレンス、および、外科術前カンファレンスで行います。さらに、コロナ禍で休んでいましたが、月1回開催する内科・外科・放射線診

断科・病理診断科医による合同カンファレンスを再開し、検証を積み重ね、知識の向上と診療の発展に反映させていくつもりです。

自分を後回しにしないこと

Q. ここ数年のコロナ禍で、全国的に〝受診控え〟、〝手術控え〟が問題になりましたね。

竹下 そうですね。実際、つい最近も、毎年乳がんの検診を受けられていた方が、4年ぶりにお見えになるということがありました。特に女性は、ただでさえ、自分を後回しにする傾向があるのですが、コロナ禍では、それがさらに助長されたように感じます。

また、肝胆膵領域のがんは難治性で、治療を待つことができない場合も多いので、ぜひ早めに受診していただければと思います。

早期発見・早期治療に勝るもの無し

佐々木 胸やお尻のこととなると、やはりなるべく他人に見られたくない、という気持ちも働きますし、普段でもハードルが高いようです。

当院では、通常ですと、全身麻酔による手術が、年間で約500~600件行われるのですが、ここ数年はかなり減っていました。病気の進行は待ってくれませんので、症状が出てから病院に来るのではなく、年に一度は検診を、またカメラの検査も2年に一度は受けていただくのが理想的かと思います。

どんな病気も、早期発見・早期治療に勝るものはありません。

誰もが平等に受けられる日本の医療の素晴らしさ

Q. 宮下先生は留学されていたご経験もありますが、アメリカと比較して、日本の医療をどうお感じになりますか？

宮下 もちろん、アメリカは先進的な医療に果敢にチャレンジしていますし、留学先のジョンズ・ホプキンス大学には、世界中から集まった素晴らしい頭脳と医療技術がたくさんありました。しかし、アメリカには、日本のように国民が等しく医療を受けられるような国民皆保険制度はありません。

当時の上司からは、このジョンズ・ホプキンス大学病院に来られるのは、財力のあるほんの一握りの患者さんたちだけなので、ほとんど全ての人が、平等に高いレベルの手術を受け、お薬を飲める日本はとても恵まれた国なのだと教わりました。

ましてや、チームワークを大切にし、患者さん想いで、よく働くスタッフがたくさんいる当院のような環境は、あらためて素晴らしいと、私自身感じています。

手術はベスト？現状でのベターは？

Q. これから、市民病院は、どんな外科を目指しますか？

佐々木 外科医ですから、手術で治癒させることが一番の使命ではあるのですが、あえて、手術に固執

しない、と申し上げたいと思っています。当院の患者さんには高齢の方も多いですし、40代、50代の方と同じように画一的な手術をすることが必ずしもベストとは限りません。

〝現状でのベター〟という考え方があってもいいと思っています。

竹下　根治性はもちろん重要ですが、生活の質が落ちて寿命が延びることを喜ばない患者さんもいらっしゃいます。手術を一方的に押し付けるのではなく、自宅での生活とバランスが取れた、からだに負担の少ない治療法などもご提案し、それぞれのメリット、デメリットについてきちんとご説明すべきと考えます。

〝サルコペニア〟に対抗する「リハビリテーション栄養」

宮下　人は年齢を重ねるに従い、筋肉量が減っていく〝サルコペニア〟という現象が起こります。筋力が衰えていたり栄養状態が悪かったりすると、回復が遅れるばかりか、感染などの術後のトラブルが増える傾向にあることがわかっています。手術や抗がん剤などの治療前に、患者さんの筋力の回復、いわゆる〝サルコペニア〟を防ぐことと、栄養状態を改善させることはとても重要です。

そのため当院では、手術などの治療前から、管理栄養士や薬剤師、理学療法士、看護師らが介入して、NST（栄養サポートチーム）をつくり、患者さんの栄養状態の評価・指導や、筋力をつける「リハビリテーション栄養」にも力を入れていく予定です。

一人一人に合った〝オーダーメイド〟の医療を

宮下　今後はますます、多科、多職種の連携が重要となってきます。これらの連携がしっかり取れる当院の強みを生かし、ガイドラインに沿った標準治療だけでなく、患者さんやご家族にとって、最も良いと思われる方法を提示し、仕立て屋のように、一人ひとりの身体と好みに合った〝オーダーメイド〟の医療の提供を目指してまいります。

内科看護師長 神田（かんだ） 亜矢子（あやこ） 看護師

副院長 林（はやし） 茂（しげる） 医師

臨床検査科 副主幹 村椿（むらつばき） 智佳子（ちかこ） 臨床検査技師

特集

「中央採血室」始まる！

富山市民病院では、外来患者の血液検査をよりスムーズに行うため、外来診療棟１階に「中央採血室」を設置。今年５月１日から運用を開始した。その経緯や運用状況について、中心的役割を担う3人に話を聞く。

ことし5月からスタート

Q．まず、林副院長にお伺いします。「中央採血室」は、どのような経緯で開設されたのでしょうか？

林 当院ではこれまで、血液検査が必要な患者さんの採血は、各科の外来で行っていました。「中央採血室」については、10年ほど前から構想としてあったものの、老朽化に伴うリニューアル案件など優先すべき課題がさまざまあり、多くの時間を要しましたが、このたび2023年5月1日より、運用を開始しました。

Q．「中央採血室」は、どこにありますか？

林 1階の中央受付から近く、「がん何でも相談室」の隣に「中央採血室」を構えることができました。約130㎡のフロアには、待合スペースや、5人の患者さんが同時に採血できるブース、検尿トイレ、立ち眩みの恐れがある患者さんや安静が必要な患者さんが横たわって採血できるベッドも用意されています。

各科の看護師と臨床検査技師が協力

Q. スタッフの体制についても教えてください。

林 午前中の混み合う時間帯などは、各外来から看護師や臨床検査技師が集まり、最大約10人で対応しています。

Q. 各科が協働して採血業務にあたっているのですね。

林 はい。臨床検査技師の方たちにも、検査はもちろん、採血に協力してもらっています。また、各科から看護師が集まることで、現場の一体感も生まれているようです。

動線や視線をシミュレートしプライバシーに配慮

Q. 運用にあたっては、どのような準備が行われましたか？

林 運用開始に向けては、トレーニングや入念なリハーサルを行い、実際動いてみる中で、待合スペースのベンチの向きを変えたり、採血ブースを奥に向かうにつれ角度をつけて配置したりすることで、順番を待つ患者さんと、採血中の患者さんの視線が合わないレイアウトにすることができました。こうしたプライバシーへの配慮は、当院のナースの意見から実現したもので、限られたスペースをより有効活用するのに役立ちました。

再診受付が済んだら、直接「中央採血室」へ

Q. 今後の採血の流れはどのようになりますか？

林 これまで再診予約のある患者さんは、受付を済ませると、まず診療科に行き、そこで必要な場合は採血し、結果が出るまでに40～50分お待ちいただいていました。

今後は、血液や尿検査予定のある方は、直接この「中央採血室」にお越しいただき、採血室入口で、改めて受付番号をお取りいただきます。病院は、7時半過ぎには開いていますので、たとえば採血を8時に済ませれば、診察が始まる9時頃には結果が出ているということになります。

集約するメリットとは？

Q. 「中央採血室」が運用されたことで、患者さんにはどんなメリットがありますか？

林 血液検査の結果が出るまでの時間は変わりませんが、早くスタートを切れることで、診察の流れがスムーズになり、結果として病院の滞在時間が少し短縮されるのではないかと考えています。

Q. 病院側にとっては、いかがでしょう？

林 各科に採血に必要な物品を揃えておく必要もなくなりますし、看護師の負担も軽減されます。作業を一カ所に集中させることによって、技術が熟練され、サービスの向上にも繋がることを期待しています。

周知を図り、よりスムーズに

Q.「中央採血室」を使わない例外もありますか？

林　小児科では、特別なトレーニングを積んだ医師や看護師が採血を行う必要があるため、従来通り小児科外来で、また、人間ドックや各種健康診断についても、健康管理科にて引き続き採血を行います。

Q. 患者さんたちへメッセージをお願いします。

林　病気の診断や、将来の発症リスクを調べるために、血液検査は欠かせません。肝臓や腎臓の異常、糖尿病、貧血、脂質異常症など、血液検査で分かることはいろいろあります。

この「中央採血室」についても、よりスムーズな運用となるよう、丁寧にご案内し、周知を図っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

「中央採血室」の利用者は一日に約150人

Q. 引き続き、神田師長、村椿副主幹に伺います。一日にどれ位の方が「中央採血室」を利用されますか？

神田　一日に100～200名ほどの患者さんが採血をされています。そのうちの約100人は午前10時頃までに集中しているかと思います。

Q. 採血スタッフの方は固定なのですか？

神田　各外来から、その日のシフトによって看護師が集まり、臨床検査技師の方たちと一緒に採血にあたっています。

Q. 臨床検査技師の方も採血されるのですね。

村椿　臨床検査技師は、人体から採取した血液や尿、喀痰、組織、細胞、髄液などを調べるのがメインの業務ではありますが、法令により診察の補助としての採血業務が認められています。学校ではもちろん実技を学んでいましたが、それでもやはり「中央採血室」の運用前には、毎日練習に参加しました。

トレーニングを重ね リハーサルを実施

Q. いろいろな準備を経て、運用が始まったのですね。

神田　そうですね。スペースにも限りがありますので、もともとこの場所にあった「看護外来」を分散するところから始まり、水回りを含めたレイアウトを一つ一つ検討していきました。

村椿さんをはじめ、臨床検査技師や採血経験の浅いスタッフには、トレーニングの機会を設け、リハーサルを通して、課題を話し合いました。

患者さんファーストの採血を

Q. 実際、運用が開始されて、いかがですか？

神田　緊張感をもって、それぞれが仕事に集中できていると思います。採血の流れが変わったことをまだご存じない患者さんも多いので、混乱が生じないよう、なるべく丁寧にお声がけし、アテンドするよう努めています。

村椿　責任をもって採血にあたっていますが、患者さんによって、採血しやすい方と、しにくい方がいらっしゃいますので、無理に自分でやりきろうとせず、ベテランの方にバトンタッチをお願いすることもあります。

あくまでも〝患者さんファースト〟で、ご負担をおかけしないように心がけています。

互いの理解が進む 多職種連携の現場

Q. 臨床検査技師と一緒に行う現場の雰囲気は？

神田　血液検査には、特殊なものを含め、多くの項目がありますので、これまでは、血液を検査に回してから、実は量が足りなかったと再依頼が来ることなども稀にあったのですが、同じ現場に、臨床検査技師がいることで、すぐに質問できるところが良いですね。

村椿　検査業務ばかりに従事してきたスタッフにとっては、患者さんと直接ふれあう良い機会にもなりますし、多職種が連携することで、お互いの理解が進む点も有意義だと感じています。

もっと快適な採血を目指して

Q. これからの抱負を聞かせてください。

村椿　採血は、時には、意識が遠のいてしまう方、倒れてしまう方もいらっしゃるほど、どなたにとっても、緊張や不安がつきまとうものです。そんな心配を少しでも取り除き、安全に採血を行った上で、正確な検査結果が出せるよう努力し続けたいと思います。

神田　「中央採血室」はまだ稼働したばかりですので、これから利用者のお声に耳を傾け、自分たちの動きやすさも検証しながら、患者さんたちにとって、よりスピーディーで快適な採血が行えるように改善していきたいと思っています。

副院長・医療局長 家城恭彦（いえぎ やすひこ） 医師

副院長・医療技術局長 湖東慶樹（ことう けいじゅ） 医師

特集

日進月歩で新しく
市民病院の医療を先頭に立ってアピール

2023年４月から、家城恭彦医師と湖東慶樹医師が副院長に就任。当院の現状と課題について、それぞれが担う役割や取組み、将来に期する思いを聞く。

よりよい医療の提供を目指して

Q. 副院長就任にあたり抱負をお聞かせください。

家城　市民病院には２０１６年に着任してから６年が経ち、医療局長として病院事業に関わるなかで、当院が置かれている状況の厳しさを、切に感じています。

当院のため、患者さんのために、少しでも改善の方向へと進めていくことが使命であると心得て、よりよい医療の提供に貢献できればと思っています。現状に真摯に向き合い、地道に取り組んでいく考えです。

湖東　私も家城先生と同じ２０１６年に市民病院へ赴任しまして、共に管理部門を歩んできました。３年前からは医師、看護師以外の医療系スタッフを統括管理する医療技術局長を務めながら、広報業務や働き方改革に携わってきました。いずれも後進職員を育成していく時期に差し掛かっていると感じています。

また、地域医療に貢献していくためには、新型コロナウイルス感染症で影響を受けた医療体制を早く再構築することが、最初に取り組むべき課題であると認識しています。

Q．当院の現状と課題については、どのようにお考えですか？

家城　経営面で市内の同規模の病院とせめぎ合っている状況において、ご存知の通り、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことは、まさに「泣きっ面に八チ」でした。

しかし、その両方を乗り越えていかないことには、当院に明るい将来はないと考えます。

市民の皆さんからの信頼を得るために、そして、当院で働きたいという若い医療従事者を増やしていくためには、「市民病院は新しくなった」と、積極的に外へアピールしていく必要があると感じています。建物は古いけれども、ソフトは常に更新されていることを、先頭に立って広めていくのが役割だと思っています。

湖東　市民病院の各診療科の特色や良いところが、あまり市民の皆さんに知られていないのではと感じています。広報の担当者として、このことをどうやって打開していくか、また、家城先生が述べたように外見は古くても、提供している医療は新しいということを、もっと市民の皆さんに伝えていく必要性があると思っています。

家城　これまでは、一生懸命に取り組んでさえいれば、自ずと周囲には伝わっていくものと思っていた節もあったかもしれません。

しかし、これからは積極的に情報発信することで、関心を持っていただける人を増やし、「市民病院で診療を受けてよかった。今度具合が悪くなったときも、また市民病院を受診したい。」と思っていただくことで、病院全体のイメージ向上や経営の安定化につながると考えています。

Q．アピールしていきたいのは、どのようなことでしょうか？

湖東　当院には、北陸で初めて導入した患者さん自身の血液から治療に必要な血液製剤をつくる「クリオシールシステム」をはじめ、実績を上げている分野が多数あります。しかし、専門性が高い分野が多いために、市民の皆さんには伝わりづらい面があったと感じています。

また、２０２０年夏に、新しい手術棟が完成しましたが、その時期が新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期と重なり、十分なアピールが出来ませんでした。新しい手術棟は、感染症対策が可能な陰圧室やバイオクリーンルームなどの機能と広さを備え、質の高い手術に応えられる環境が整っており、これからの更なる活用が期待されます。

家城　その他、当院が先進的に取り組んでいる無痛分娩も近年関心が高まっています。

湖東　さらに、心血管・脳血管エックス線撮影装置や３Ｄ再構築システムと手術台を組み合わせたハイブリッド手術室の導入も検討しています。若手の外科医には、ロボット手術を実施する技術がある医師も赴任しており、手術支援ロボットの導入も検討する必要があると考えています。

家城　若い先生たちが新しい風を吹き込んで、盛り上げていってほしいですね。病院の将来を見据えて、新陳代謝を促すのも我々の役目だと思っています。

Q．最後に読者の方へメッセージをお願いします。

家城　当院を訪れる患者さんに、「来てよかった」と思っていただけるような医療の提供を目指しています。

そのためにも、病院としての体制をしっかり整えて、直すべきところは謙虚に直し、発信すべきことはどんどん発信していきたいと思います。

湖東　市民の皆さんに満足していただける急性期医療を提供するために、市民病院は、日々前進しています。

新型コロナウイルス感染症の対応が５類に移行したこともふまえて、より患者さんに寄り添った急性期医療を提供していきたいと思っています。

Topics

01 TOPIC 特定行為研修　開講式を行いました

富山市民病院は、令和5年度から特定行為研修を開始しました。

「特定行為」とは、医師及び歯科医師が行う診療の補助のことです。看護師が手順書に基づき特定行為を行うためには、厚生労働大臣が指定した指定研修機関での研修の受講が必要となり、富山市民病院は、令和5年2月に指定を受けました。

地域医療・高度医療の現場において、必要な専門的な知識と技術を身につけ、医療安全を配慮しつつ特定行為を実施する看護師、さらにはチーム医療の中心的な役割を担うことができ、地域に貢献できる看護師の育成に取り組んでいきます。

研修開始にあたり、4月5日に開講式を開催しました。令和5年度は、富山市病院事業局に所属する3名の研修生（山本美絵さん、廣田悟志さん、吉川侑希さん）が受講します。藤村院長や富山県看護協会稲村会長から激励の言葉をいただき、決意を新たに1年かけて講義、演習、実習を受け、研修修了を目指します。

市民病院で実施する区分別科目	
●栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連 ●栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	●動脈血液ガス分析関連 ●栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

02 TOPIC 「新人1か月フォローアップ研修（ボクササイズ体験）」を行いました

5月26日に新人1か月フォローアップ研修を開催しました。働き始めて間もない新人看護師に日頃のストレスを解消してもらうため、職場を離れ同期や理学療法士、薬剤師、研修医、臨床工学技士ら多職種との交流を行いながら、キックボクシング体験を取り入れた研修でリフレッシュしました。

30名の参加者はアップテンポの音楽に合わせて、キック・パンチ・フックを交え勢いよく身体を動かし、終わった後には息を切らしながらも笑顔が見られました。スタッフが元気に働けるような取組みを今後も行っていきたいと思います。

Event Information　2023. 7月 → 9月

ふれあい健康講座

申し込み・参加費は不要です。まちなか総合ケアセンターへ直接お越しください。
●開催時間／各回13:30～(30分程度)　●会場／まちなか総合ケアセンター(総曲輪4丁目)

7 JULY

3 月	お口の体操 ～食べる力を鍛えよう～
4 火	糖尿病の検査について
5 水	コツコツ続ける 骨そしょう症予防の食事
6 木	糖尿病ってどんな病気
10 月	食中毒を予防しよう
11 火	こどもの脱水 家庭でのケアと受診の目安
12 水	大腸がんの見つけ方
13 木	がん免疫療法について
18 火	転ばないための体力づくり やってみようロコモ体操
19 水	がんの痛みについて
20 木	熱中症について
24 月	認知症の基礎知識
25 火	がん何でも相談室ってどんなところ
26 水	★ママと赤ちゃんのための 産後エクササイズ
27 木	メンタルヘルス ～心の健康～

8 AUGUST

1 火	腎臓を守ろう
2 水	10分間でできる腰痛体操
3 木	糖尿病の種類について
7 月	エコノミークラス症候群について
8 火	子どものけいれん 観察と対応
9 水	ちょっと待って！ その尿漏れほおっておいても大丈夫?
10 木	検査結果の見方について
21 月	いびき、気になりませんか？ 睡眠時無呼吸症候群のセルフチェックをしてみよう！
22 火	貼付剤について
23 水	★ママと赤ちゃんのための 産後エクササイズ
24 木	気をつけたい高齢者の食事
28 月	認知症の人とのコミュニケーション
29 火	放射線治療医が語る 放射線治療について
30 水	肺がんの薬物療法

9 SEPTEMBER

4 月	アルツハイマー型認知症
5 火	医師が語るサルコペニアとの闘い！
6 水	脳卒中を予防する食事
7 木	糖尿病予防のための生活のコツ
11 月	現在流行している感染症対策
12 火	超音波検査について
13 水	便秘のお話
14 木	フットケア ～足からの健康～
19 火	慢性心不全のお薬について
20 水	緩和ケアは在宅でもできますよ
21 木	～脳卒中について知ろう～ 10月は脳卒中月間です
27 水	★ママと赤ちゃんのための 産後エクササイズ
28 木	肺がんについて

※講座内容は変更になる場合がございます。

★の講座の参加は、事前に電話をお願いします。
(持ち物等をご案内します)
TEL.076-422-1112(ふれあい健康講座担当まで)

The Idea of the Toyama City Hospital

富山市民病院の基本理念

使命 MISSION

富山市民病院の存在意義

私たちは医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献します。

価値観 VALUE

我々が何を大切にしていくかのキーワード

- 信頼 安全･安心、満足、透明性
- 良質 技術、知識、向上心、科学的
- 俊敏 迅速、効率的、的確
- 思いやり やさしさ、やすらぎ、おもてなし、親切
- つながり 連携、チームワーク、わかりやすさ

展望 VISION

将来どのような姿を目指すのか

地域医療に不可欠な信頼される中核病院となる

- 救急医療、災害医療に強い病院になる
- 質の高い急性期医療を担う病院になる
- シームレスな地域医療を築き安心を提供する病院になる

富山市民病院マガジン［きよら］／No.109：2023年7月号

発　行　富山市立富山市民病院　広報委員会
〒939-8511　富山市今泉北部町2-1
TEL. 076-422-1112　FAX. 076-422-1371
https://www.tch.toyama.toyama.jp/

Toyama City Hospital　富山市立富山市民病院
Japan Council for Quality Health Care　日本医療機能評価機構